

# カラトイッテ類が 介在する文における 推論否定の表現について

高橋美奈子

## ◆要旨

文中で接続助詞的に用いられる「からと  
いって」という形式は、ある事柄を根  
拠 (p) として一般的に予想されるような結  
論 (q) を導き出すという推論や判断を否定  
するのに用いられ、後件には否定を伴うとさ  
れる。本研究では、接続助詞的に用いられる  
「からといって」、「からって」、および接続詞  
的に用いられる「だからといって」「だから  
って」といった形式を「カラトイッテ類」と  
し、これらが介在する文、及び文連続の実例  
を分析した。その結果明らかになった、カ  
ラトイッテ類の後件の様相、具体的には否  
定を表す表現およびqの示し方、ひいては  
 $\langle p \rightarrow q \rangle$  という推論や判断に対する否定の仕  
方の多様さについて記述する。

## ◆キーワード

カラトイッテ類、 $\langle p \rightarrow q \rangle$  という推論や判断、  
否定形式、qの示し方

## ◆ABSTRACT

Karatoitte, a kind of conjunction, is used to negate the reasoning that draws a reasonable conclusion (q) from grounds (p). It is believed that the sentences that involve karatoitte have a form of negation in consequent.

In this research I analyzed the sentences that involve the varieties of karatoitte, namely, karatoitte, karatte, dakaratoitte and dakaratte. I found that some of those sentences don't have a clear negation, a conclusion (q) in consequent. I think I could make it clear the various aspects of consequent of those sentences. I will show various form of negation, expression of q, and describe various ways of the negation of the reasoning of  $\langle p \rightarrow q \rangle$  in the sentences that involve the varieties of karatoitte.

## ◆KEY WORDS

varieties of karatoitte, reasoning of  $\langle p \rightarrow q \rangle$ ,  
form of negation, An expression of q

## The Expression of the Negation of the Reasoning in the Sentences that Involve Varieties of Karatoitte

MINAKO TAKAHASHI

## 1 はじめに

文中で接続助詞的に用いられる「からといって」という形式は、ある事柄を理由・根拠として一般的に予想されるような結論・帰結を導き出すという推論や判断を否定する文に用いられ、後件には否定の表現を伴うとされている。

(1) 地位も財産もあるからといって、その人が幸せであるとは限らない。

(1) には、「(その人に) 地位も財産もある」ということを根拠（以下、根拠となる事柄をpと表す）として「その人が幸せである」という結論（以下、結論となる事柄をqと表す）を導き出すという推論に対する否定が表されている（以下、〈pを根拠としてqという結論を導き出す〉ことを〈p→q〉と表す）。

「からといって」の後件としては、qに加え、「わけではない」（推論否定）や「とは限らない」（一般法則が成立しない場合がある意）などの否定表現を含んだ述語が来るのが典型的であろうが、实例を見るとその様相は単純ではない。

本研究では、接続助詞的に用いられる「からといって」、「からって」、および接続詞的に用いられる「だからといって」「だからって」といった形式（これらを「カラトイッテ類」<sup>[註1]</sup>と呼ぶ）が介在する文、及び文連続の实例を、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」、新聞のweb版、小説・随筆・漫画等から採集して分析した。その結果、カラトイッテ類の後件に現れる表現の多様さ、〈p→q〉という推論や判断に対する否定の仕方の多様さが明らかになった。

## 2 先行研究

本稿で言うカラトイッテ類の後件についての、先行研究における記述や説明を概観する。

### 2.1 小金丸 (1990)

小金丸 (1990) は、「～からといって」を用いた文の文末には制限があり、肯

定や単純な否定の形にはならず、「動詞の肯定の言い切りの形、名詞等 + 「わけではない」「とは限らない」「ことはない」等」といった形になる、と述べる。また、注で、文末が反語表現となるものも〔肯定の言い切りの形+否定の形式〕と同様に考えられるとも述べている。

### 2.2 陳 (2011)

陳 (2011) は、「カラトイッテ」の機能を「前を事実として認めたところで、それを根拠に推論を行うことの妥当性を否定する内容へと結び付ける」(p.121) とし、「用法は、主に「Qが概言的であるもの」と「Qが当為的であるもの」の二つに分けられる」(p.114) とする。「Qが概言的であるもの」の例としては「Q {わけではない、とは限らない、とは言い切れない、保証はない、とは思えない、とは言えない}」などを後件に持つ文が挙げられている。「Qが当為的であるもの」とは、「Pだけを理由に、Qを導いたことの妥当性について、評価・価値判断をしている」(p.117) というもので、このような例として挙げられる文について、次のように記している (同頁)。

- ・Qに対し、「好ましくない」「おかしい」「おこがましい」「とんでもない」と評価している
- ・Qに対し、疑問を投げかけている
- ・Qに対し、「してはいけない」「やめてほしい」「すべきではない」「するわけにはいかない」のように、当為判断をしている
- ・「Qしてしまっは、どうなってしまうか」を表している

### 2.3 藤田 (1998)

藤田 (1998) は「トイッテモ」や「トイッテ」を「推論を否認する形式」とし、これらの後件句は「…とは限らない」などの否定の形が普通だが、肯定の例もあるとして、「ガンだといっても、助かる可能性はある。」のような例を挙げる。このように後件が肯定の形を取るものについては、本研究も6.4で取り上げる。

### 3 本研究の方向性

前述の陳 (2011) において、カラトイッテ類の介在する文の多様なものが示されている。小金丸 (1990) が挙げる反語表現も、カラトイッテ類の後件にはしばしば現れる。このように、カラトイッテ類の多様な後件については、既に先行研究によりかなり示されていると言える。

しかし本研究では、実例の分析の結果、これまでに言及のないものも見出せた。カラトイッテ類の後件においては、 $\langle p \rightarrow q \rangle$  の否定のために用いられる表現・手法のみならず、pから導かれるqの示し方も一様ではない。陳 (2011) は「PとQ、Qに対する否定（あるいは評価、価値判断）の三つのいずれも文中に明示する必要がある」(p118) と述べるが、筆者の見るところ、それらが明示されていない場合もある。カラトイッテ類が介在する文・文連続においては、「p + カラトイッテ類 + q + とは限らない」のように後件にqおよび否定形式が明確に現れているもののほかに、それとは異なる手法によって  $\langle p \rightarrow q \rangle$  という推論や判断に対する否定が表わされているものも多くある。

カラトイッテ類の後件を、その特徴に着目し、本稿では次のように整理する。

表1 カラトイッテ類の後件の様相

否定形式の使用について	後件の内容面の特徴について	qの示し方
A 文法的否定形式を使用		qが明示される
B 語彙的否定形式を使用		
C 否定形式を使用しない	$\langle p \rightarrow q \rangle$ に対する非難や驚きを示す…C1	
	$\langle p \rightarrow q \rangle$ に対する疑念を示す…C2	qが明示されない
	qがもたらす望ましくない事態を示す…C3	
	$\langle p \rightarrow q \rangle$ の否認と同内容を示す…C4	
	qと対立するような内容を示す…C5	
	後件が言語化されない…C6	

後件における否定形式の使用に関しては、A・B・Cの3種類に分けられる。

qの示し方に関しては、qが明示される場合（節・名詞修飾節+名詞・名詞の形で

示す、あるいは条件表現を用いて示すなど）と、明示されない（qが言語表現上に現れない場合とがある）。

Cについては、後件の内容面に見られる特徴からC1～C5に区分した。また、カラトイッテ類の形式で文が終り、言語化された後件を持たないという文・文連続もある。否定形式が現れないという特徴から表1ではCに含めC6とした。

このような整理の仕方をするのは、カラトイッテ類の後件を、日本語学習者にもわかりやすいような形で整理して示したいと考えてのことである。母語話者は、後述するような、カラトイッテ類の後件に否定らしい否定の形式が現れなかったり、qが明示されていないタイプの文や文連続についても、そこに何らかの形で  $\langle p \rightarrow q \rangle$  という推論や判断に対する否定が表されていることが適切に解釈できる。しかし学習者にとっては、後件に「～ナイ」など否定であることが明瞭な形式を欠く「カラトイッテ類」の文の場合、その解釈が適切にできないこともあり得る<sup>[註2]</sup>。

以下、表1に示した否定形式の使用の種類A・B・Cの順に、カラトイッテ類が介在する文・文連続について記述していく。

### 4 文法的否定形式を用いるもの (A)

後件で、述語否定形、「ある」(存在)の否定である「ない」、否定命令すなわち禁止を表す動詞禁止形などを用い、 $\langle p \rightarrow q \rangle$  の否定が明確に表される文・文連続である。qも明示される。(例文中の否定形式の部分に波下線      を施す)

- (2) ですから、[引用者注：子どもに] どうしても欲しいというものを買ってやらなかったからといって、あとあとまで悔しい思いが残るとも思えません。  
(田中喜美子『本当の金銭教育』)
- (3) 常連さんが多いらしいんですが、だからといって、初めてきた人が入りにくい店ではなく、隣に座った者同士、話に花が咲くそうです。

(Yahoo! ブログ)

- (4) [注：サービス付き高齢者向け住宅の説明] 賃貸住宅のため高額な一時金が不要で、介護度が上がったからといって退去を迫られることはない。  
(日経新聞2014.6.4)
- (5) 「たかだか百年がたよけいに生きてるからといっていばるな…！」  
(萩尾望都『ポーの一族』)

## 5 語彙的否定形式を用いるもの (B)

後件で、話し手の評価が示される際に、述語否定形(例：「適切ではない」「いいと思わない」等)ではなく、それ自体で否定の意味を持つような語が用いられることがある。そのような語を「語彙的否定形式」と呼ぶ<sup>[注3]</sup>。カラトイッテ類の後件に現れる語としては、次のような意味タイプのものがある( { } に実際に見られた語例を挙げる。例文中の語彙的否定形式に波下線      を施す)。

qも名詞節や名詞句の形で明示される。

- ①「賛成しない、同意しない」意 Ex. {反対だ}
- (6) 障がい者の能力に合わせた支援学級・学校で教育をとという意見もわかります。しかしだからといって、その高校のように入学希望者の障がいについて具体的に審査、検討もせず拒否する姿勢には反対なのです。  
(朝日新聞2014.2.26)
- ②「事態の実現が難しい、事態が生起しにくい」意  
Ex. {難しい、厳しい、ハードルが高い、勇気がいる、少ない、…}
- (7) [注：空き家は]所有者が管理するのが基本で、条例ができたからといって個人の財産に行政が踏み込むのはなかなか難い。  
(朝日2014.9.9)
- ③「違う・異なる、誤りである、偽りである」意  
Ex. {違う、別の話だ、誤りだ、大間違いだ、はき違えている、筋違いだ、ガセだ、…}
- (8) 「インプロヴィゼーション=即興」であるからといって、それは出鱈目とは全く違う。  
(朝日2014.3.9)

- ④「基準や規範に合わない、普通ではない」意  
Ex. {反する、違反する、外れている、～すぎる、極端だ、…}
- (9) サービス業だからといって、すべてが便利で好都合というのは、エコロジーにも反します。  
(朝日2013.8.11)

- ⑤ 悪い評価・低評価の意、不快・嫌悪など負の感情を誘う意  
Ex. {おかしい、ひどい、危険だ、無責任だ、アバウトだ、早計だ、拙速だ、もってのほかだ、暴挙である、問題がある、まだまだだ、勿体ない、可哀相だ、情けなく思う、うんざりする、嫌だ、悔しい、気がひける、…}
- (10) 覚えられないからといって、パスワードを書いた紙を財布に入れたり、パソコンに貼り付けたりするのは危険だ。  
(読売新聞2014.7.28)
- (11) 「日本の映画関係者が辰巳作品を消化できないからといって、海外の映画人にゆだねるのはファンとして本当に情けなく思う」。  
(朝日2014.9.1)

- ⑥「やめるべきである」意  
Ex. {「やめる」「避ける」「控える」「慎重になる」等+評価のモダリティ表現、依頼の表現など}
- (12) 相手が信頼おけるからといって、感情のまま思いをぶつけるのも、やめた方がよい。  
(日経2014.9.8)
- (13) 同じ症状が出たからといって、長期保存した薬を再び服用することは控えてください。  
(朝日2014.8.21)

「やめる」など「行わない」意味を表す動詞類に「ほうがいい」「べきだ」「なければならぬ」等の評価のモダリティ表現が付されると、pを根拠として行為qを行うことについて「やめるべき」との評価が示される。これは聞き手に対する勧めや指示として機能することもある。(13)のように依頼の表現が用いられた場合、その機能が明確になる<sup>[注4]</sup>。

## 6 否定形式を用いないもの (C)

後件で文法的否定形式や語彙的否定形式を用いなくても、それ以外の形で、 $\langle p \rightarrow q \rangle$  の否定が表わされている文や文連続であるが、これも多く存在する。

### 6.1 $\langle p \rightarrow q \rangle$ に対する非難や驚きを示す (C1)

qの後に、B(語彙的否定形式)のような具体的な評価の語が示されるわけではないが、pからqを導き出してそのqを実行することへの話し手の非難の念(例(14)(15))や、pがqという結果につながることに對しての驚き(例(16))が表わされている<sup>[註5]</sup>。ここから、話し手が $\langle p \rightarrow q \rangle$ を是としないことや、認めがたく感じていることを読み取ることができる。

(14) 海外に居るから、日本で何が起きた時の挨拶は遅れるし、優先順位の低いものは欠席になるし「海外にいるからって、〇〇しないなんて」と非難され勝ちなのが海外在住の悩みです。親の介護にあたれますか？ 親族の危篤の連絡にすぐ反応できますか？…(読売2011.1.3)

(15) いくら見た目がいいからって、常ならぬものを感じたからって、今日会ったばかりの、どこの馬の骨と知れない男を部屋に入れるなんて。

(藤原万璃子『ワイルド・ローズ』)

(16) え、泣いてる？ / 「おいしすぎて……私、何だか胸が一杯になってしまっ……」 / (略) 確かに、アラから出たとは思えない、雑味のないうまみと絶妙の塩加減で、ハアァと深いため息をつきたくなる程だが、だからといって泣くほどおいしいとは。

(読売2014.4.25)

### 6.2 $\langle p \rightarrow q \rangle$ に対する疑念を示す (C2)

後件は疑問文の形を取るが、不明な事柄の解決を求めているというよりは、反語解釈ができる疑問文である。pを根拠としてqという結論を導き出すことの妥当性に対する疑いや不審の念、納得しがたい気持ちを表し、 $\langle p \rightarrow q \rangle$ の否

定を示すものとなっている。

(17) 「そんな人間が何人いようと、証拠になりますか？ 電話ボックスに入ったからといって、人殺しをした、という証拠になりますかね」

(深谷忠記『横浜・長崎殺人ライン』)

(18) 「肌の色」が違うから、「一滴の黒人の血」が入っているからと言って、なぜ乗り物や職場や学校や結婚や教会で、そしてお墓でまで差別されなければならないのか。黒人は深い憤りを抱く。

(朝日2010.2.28)

(19) いくらつきあっているからって、人生にそこまで踏み込まれるのってどうなんだろう？

(Yahoo!知恵袋)

### 6.3 qがもたらす望ましくない事態を示す (C3)

pを根拠として、行為qを実行したり、状態qを続けていたり、手段qを用いたりした場合に生起する、望ましくない事態、よくない事態が後件に示される。

qは「～こと」といった名詞節の形で示されることもあるが、「～と」「～ば」「～たら」「～なら」「～ては」「名詞+ {では/だと}」など、条件表現の形式を用いて示されることが多い(望ましくない事態に波下線\_\_\_\_を施す)。

(20) 下痢があるからと言って、安易に下痢止めを服用することは、お腹の中で細菌を増やすこととなり悪い影響を及ぼすこととなります。

(読売2012.6.22)

(21) 「言っておくが、これからは、せいぜい身を慎むことだ。金が入ったからといって、派手にばらまいたりすると、足がつくぞ」

(和久峻三『京都時代祭り殺人事件』)

(22) 「ファンをがっかりさせるのは嫌だよ。だからってファンを喜ばすために、同じような音楽をやったら、いつかやっぱり飽きられる」

(大沢在昌『氷舞』)

(23) この年になっても、オフィシャルで着てよい服とそうではない服の見分けがつかなくて(略)なかなか難しいです。だからといって、ブラッ

クスーツに白シャツ、だと就職活動している人のようになるし。

(読売2014.6.16)

「qを実行したり持続することにより、望ましくない事態、よくない事態が生じる」ということを示すことにより、 $\langle p \rightarrow q \rangle$ を、話し手は妥当と考えない、是としないことが表されている。

#### 6.4 $\langle p \rightarrow q \rangle$ の否認と同内容を示す (C4)

後件に、否定形式のみならず、qも現れていないように見える文や文連続がある(後件に二重下線を施す)。

(24) タバコに害があることは、すでに常識レベルでみなさんご存知ですね。以前は吸っていても、今はやめたという方もいるのではないのでしょうか。でも、いくらタバコをやめたからといって、まだあなたがガンになる可能性は残っています。

(news.biglobe.ne.jp/trend/0805/wor\_140805\_0396750115.html)

(25) 「勝てなかった10年があって、この2勝につながっている。(略)シーズンを通して万全の体調を維持して油断せず、最後までやっていきたい。勝ったからといって、やることはいつも一緒」と話した。

(日経2014.4.23)

(26) 朝日の記事が間違っていたからといって、「慰安婦」と呼ばれた女性たちがいたことは事実です。(「池上彰の新聞ななめ読み」朝日2014.9.4)

それぞれのpから予想し得るqは、次のような内容になるだろう。

(24)' p: タバコをやめた  $\rightarrow$  q: ガンになる可能性がなくなった

(25)' p: 勝った  $\rightarrow$  q: 今まで(勝てなかった間)とは、やるが変わる

(26)' p: 朝日の記事が間違っていた  $\rightarrow$  q: 「慰安婦」と呼ばれた女性たちがいなかったことになる

実際の後件に示されているのは、予想し得るqの内容(24)'(25)'(26)'の否定((24): ガンになる可能性がなくなったわけではない、(25): 今までとやるが変わるわけではない、(26): 「慰安婦」と呼ばれた女性たちがいなかったことになるわけではない)と同内容といってよい。

2.3で触れたように、藤田(1998)は「トイッテモ」の介在する文に、「ガンだといっても、助かる可能性はある。」のように後件が肯定の形を取るものがあることを指摘する。その説明として、推論(p: ガンである  $\rightarrow$  q: 助からない)を否認した後件句(「助からないとは限らない」と実質的に同義の言い換えであり、「推論の否認」の延長上にある、と述べる。ただし、藤田はこのような例を、「トイッテモ」についてしか示していない。藤田は「トイッテ」は「カラトイッテ」が基本、「トイッテモ」は「カラ」を伴わないのが基本としており、この「推論を否認した後件句と実質的に同義の言い換え」が後件に現れることを、「トイッテモ」には認めても、「カラトイッテ」には認めていない可能性もある。しかし、(24)~(26)のような例についても、後件には、 $\langle p \rightarrow q \rangle$ を否認したものと実質的に同義の内容が示されていると見てよいだろう。

やはり後件にqも否定形式も見られない、次のような文もある。

(27) 舛添知事は「株主だからって[注: 東電に対して] 都合が言えることは非常に限られている」と方針転換した。(朝日2014.6.27)

(28) [注: 嫁姑関係の悩みを述べる文章の一部] 身内だからといって、言って良いこと悪いことがあると思うし、夫に言うならまだしも嫁の私に面と向かって言うなんて、人として神経を疑いますし、(後略)(読売2013.8.9)

それぞれのpから予想し得るqとしては次のようなものが考えられるだろう。

(27)' p: 都合は東電の株主である  $\rightarrow$  q: 都合は東電に対し強い発言力を持つ

(28)' p: 嫁の私は姑にとって身内である  $\rightarrow$  q: 姑は私に何でも言ってよい

(27)(28)の実際の後件には、当該事態について、限定や制限があるという

内容が述べられているが、これはpから予想し得るqの内容(27)'(28)'の否定となっている。このような内容を後件に示すことで、qや否定形式を明示していなくても、 $\langle p \rightarrow q \rangle$ の否認が表されているのである。

### 6.5 qと対立するような内容を示す(C5)

次も、カラトイッテ類の後件に、否定形式もqも明示されていない文である。

(29) いくら生活に追われているからって、時間は自分で作らなければ。天から降ってくるものじゃないのよ。

(宇津木理恵子／松田解子『あの人の元気のもと』)

(30) ところで、壇よ、いくらローズとのことが忙しかったからって、警察病院の宝さんとこの護衛者が、元気になったってことぐらいは聞いているだろうな。

(城戸礼『爆裂スパーク刑事』)

(31) 何でキノコ狩りをする人達は、キノコ探しばかりに夢中で、こんなにキレイなハマエンドウなどに目もくれないんだろう(?!?)って!!  
いくら食べられないからとって、こんなにキレイな花を見たら少しは足を止めて鑑賞するぐらいの事をしても良いんじゃないかなあーー!!ってね(@\_@)

(Yahoo! ブログ)

(32) この地で子育てをするのは不安だ。ある程度都会じゃないとだめだ。  
まあ、都会だからと言ってたらい回しも多いけど。

(Yahoo! ブログ)

これらのpから予想されるqの内容、及び実際に後件に示されている内容を下に記す。

	p	→	q	実際に後件に示された内容
29'	生活に追われている	→	時間の余裕がない	時間は自分で作らなければならない
30'	私事で非常に忙しくしていた	→	仕事に打ち込めず情報に疎くなるのも無理はない	“警察病院の…元気になった”という情報ぐらいは把握しているべきだ
31'	ハマエンドウの花は食べられない	→	キノコ狩りの人達は、花に関心を持たない	足を停めて花の美しさを鑑賞するぐらいのことをしてもよいのではないか
32'	子育ての場が都会である	→	充実したサービスが受けられる	たらい回しという対応も多い

後件には、C4のような「 $\langle p \rightarrow q \rangle$ 」を否認したものと実質的に同義の言い換えとまでは言いにくいとしても、qと対立するような内容が示されている。これにより、 $\langle p \rightarrow q \rangle$ の否認が表されることになる。

### 6.6 後件が言語化されないもの(C6)

文がカラトイッテ類の形式で終り(終助詞が付加されている場合もあるが)、後件を持たない、したがってqも否定も言語化されていないような文・文連続がある。

(33) くやしーいっ! ちょっとくらいかっこいいからってさ…。みんなに人気があるからってさ…。おねえちゃんのばかあ!

(澤井いづみ『課外授業はおまじないゲーム』)

(34) さんざん三吉をおどしておいて、運平たちは犬たちをつれて、森の中にもどっていきました。アッカンベー! 三吉はそのせなかに、思いっきりしたを出しました。/「ちえっ、なんだよ! ちょっとばかり狩りがうまいからって…」

(山上梨香『むくはとじゅうの名犬物語』)

(35) 「だって、おまえが康太まで疑うとは思わなかったんだ。そんなの間違ってる。あいつは悪い事なんて、なにもできないよ」/ (略) / 「でも、この数日、田中康太くんは挙動不審でしょ。(略) 容疑者は多いんです。ひとりずつつぶしていかなきゃ、前進はないんですってば」/ 「だからって、なあ……」

(毎日2014.7.4)

このような文は、現れるのが、話し手が他者の言動や態度に接して、その人への非難や不同意、釈然としない気持ちや不快の念などを表明している場面であるという特徴がある<sup>[注6]</sup>。

カラトイッテ類の後には、qを表す言語表現はない。だがqに相当するものは場面・文脈中に存在する。話し手の「p+カラトイッテ類。」という発話や内言に先行する、他者が取った態度や行為、発言内容などである。(34)ならば、運平が話し手の三吉をさんざん脅すという行為がqに当たる。

話し手が他者の態度・行為や発言qに接し、自分が認識・把握しているその

人の属性・状態や主張p ((33) なら「ちょっとくらいっかしい」「みんなに人気がある」という属性や状態、(35) なら「親しい人でも、疑わしければ容疑者として検討していかねれば事態が前進しない」という主張)を想起して、「そのpはqという行為や態度を取ったり発言をしたりする根拠としては妥当なものではない」「pを根拠にqすることが、自分には認められない」という認識を持ったその表れが「p+カラトイッテ類。」という発話や内言となる。

後件が言語化されていない文ではあるが、文脈に照らせば、文に込められた〈p→q〉の否定を読み取ることができる。

後件がなくても話し手の〈p→q〉の否定の意図がわかるのは、この形式による文が〈pを理由・根拠としてqという結論・帰結を導く〉という推論や判断に対する否定を表すことが、母語話者に認識されているからであろう<sup>[注7]</sup>。

## 7 おわりに

以上、カラトイッテ類の介在する文・文連続における後件の諸相を示し、〈p→q〉という推論や判断の否定を表す表現の多様な様相を示した。後件に否定であることが明確な形式を用いる・qを明示するといった手法ばかりでなく、それと異なる手法によっても〈p→q〉という推論や判断の否定が表わされるという現象について明らかにすることは、3.にも述べたように、日本語教育においても資するところがあると考えられる。

カラトイッテ類が介在する文・文連続についての日本語学習者の理解および使用の状況についての調査を行い、学習者にとってのわかりやすい説明や有効な学習法について考えることは、記述のさらなる精緻化とともに、今後の課題としたい。

〈四天王寺大学〉

## 注

- [注1] …… 「からと言って」「だからと言って」などの表記であっても、「言って」が特定人物の発話行為ではなく本研究でのカラトイッテ類と見なせるものも含める。  
(ア) 清和は疲れたからと言って、先に寝てしまった。(芦川芳江『雪柳』) …… 「と言って」は特定人物(清和)の発話行為を表し、「から」はその発話の一部を表す。この「からと言って」は、ここで言うカラトイッテ類ではない。  
(イ) 残酷なアニメやドラマを見たからと言って、必ずしも子どもに影響を与えるとは思えません。(Yahoo!知恵袋) …… 「言って」と漢字表記されているが、特定人物の発話行為を表してはいない。「からと言って」という形式を介在させ、後件に否定の表現を伴うことで、〈p:(子どもが)残酷なアニメやドラマを見る→q:子供に影響を与える〉という推論が否定されている。
- [注2] …… 日本語学習歴2年9か月～3年2か月の学習者13名を対象に、特定人物の発話の引用である「～からと言って」を含む文、およびカラトイッテ類を含む文(後件で文法的否定形式が用いられていない文も含む)合わせて14例(表記は全て「からといって」に統一)を読んで両者を峻別するテストを試みた。その際何を判断の手掛かりとしたかについても質問したところ、誰かの発話と見なせるかということ挙げる回答が多くあった(注1に記したように、実例ではカラトイッテ類であっても「言って」と漢字表記されている場合も多く、表記は必ずしも有力な手掛かりとならない)。また、「逆接の意味(があること)」を挙げる回答も複数あった。これは、カラトイッテ類の文が表す〈p→q〉の否定を「逆接」と捉えているものと思われる。「逆接」を手掛かりに挙げた学習者には、峻別の正答率の高い者も低い者もいた。ここから、否定が明示されない文において〈p→q〉の否定を読み取ることは、学習者にとっては決して易しくないことが推測される。
- [注3] …… 語彙的否定形式にどのような語があるかについては、否定と呼応する副詞との共起からの研究がある(工藤2000など)。それらに示される語類とカラトイッテ類の後件に現れる語類とは、重なる部分もあるが異なりもある。工藤(2000)の6種の意味タイプのうちの(Ⅱ)困難・(Ⅳ)不一致・(Ⅴ)負の評価が、それぞれ本稿の②・③・⑤と重なる。
- [注4] …… 「pを根拠として行為qを行うことをやめるよう指示する」機能は、Aに示した禁止の文も有する。
- [注5] …… qの後に「なんて」や「とは」が付加されているところから、非難や驚きが読み取れる。
- [注6] …… 使用されるのは「カラッテ」「ダカラッテ」に限られるという特徴がある。非難や不快の表明がぞんざいな口調になりやすいため、よりくだけた形が使われるものと思われる。C1の〈p→q〉に対する非難を示す場合も、同様の傾向が見られる。



[注7] …… カラトイッテ類で終わり後件を持たない文が、記事タイトルなどに用いられることがある。

(ウ) [新聞記事タイトル] ノーベル賞受賞者だからって… (読売2013.6.25)

(エ) [投稿タイトル] 登校時間に走るからって…。 (読売2013.8.17)

これらのタイトルをただで、後に示される本文の内容 (pから導かれるqを否定するような内容) が予測される。(実際そのような内容となっている)

---

## 参考文献

工藤真由美 (2000) 「2 否定の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子『時・否定と取り立て』pp.93-150. 岩波書店

グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

小金丸春美 (1990) 「相手の推論を否定する形式をめぐる―「～といっても」と「～か」といって」『梅花短大国語国文』3, pp.25-41.

白川博之 (監修) 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語表現ハンドブック』スリーエーネットワーク

陳新妍 (2011) 「「～トイッテモ」「～カラトイッテ」について」『岡山大学社会文化科学研究科紀要』32, pp.105-122.

日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語研究④ 第8部 モダリティ』くろしお出版

日本語記述文法研究会 (2007) 『現代日本語研究③ 第5部 アスペクト 第6部 テンス 第7部 肯否』くろしお出版

藤田保幸 (1998) 「複合助辞「トイッテモ」「トイッテ」「トハイエ」について」『滋賀大國文』36, pp.12-25.

森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型』アルク

---